第66回　維持管理研究会　議事録

1.　日次:　2016年7月21日(木)15:00－18:30

2.　場所:　JAL安全啓発センター　及び　富士通FIP様　会議室

3.　出席者(敬称略)15名

小田、金子、國貞、小林、澤田、守護、高桑、高橋、幡谷、平川、柳谷、
矢野、坂口、葛西、中谷(記)

4．研究内容

(1)JAL安全啓発センター見学

85年8月12日、JAL123便が御巣鷹山に墜落し、520名の尊い命が失われた。この事故から20年余が経ち風化させないために本センターが設立された。

この事故機の残骸展示が中心となっており、人の命の尊さの再認識と安全運航を学ぶ場となっている。(事故当時に社員は殆どいなくなっている。)

なお本機墜落の直接原因は、数年前に大阪空港で尻もち事故があり、その時の修理ミスにより、圧力隔壁が破壊された。

当時の改善策

①機材の改修

②整備プログラムの強化

③安全体制の強化　‥‥現在は殆どが廃止されている

・技術本部の設置

・技術研究所の設立

・品質保証部

・機付整備士

＜感想＞

123便の事故に固執したセンターとなっており、安全運航に対する維持改善や対策実施状況が十分に理解することが出来なかったのが残念である。

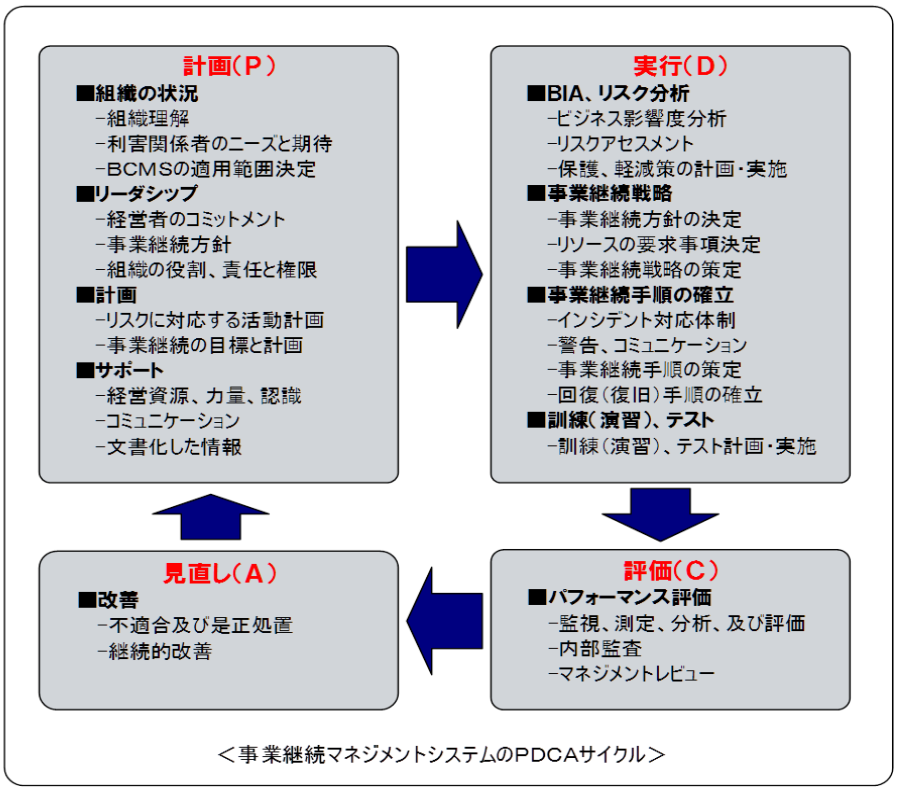
亡くなられた方が墜落直前に書かれたメモ読み、胸に熱くこみ上げてくるものがあった。

（2）研究会

今回は初めて参加の方が3名参加されたので、維持管理研究会の活動の基本について説明及び熊本地震対応での課題・対応策検討などについて各メンバーから報告

①マネジメントシステムの概略

事業継続マネジメント（BCM）とは、組織が予想規模を超える重大な危機（緊急事態）に直面した際に、組織にとって重要事業を存続（継続）させるために必要な一連の活動をマネジメントするための重要な経営手法である。



＜事業継続マネジメントシステムのPDCAサイクル＞

事業継続計画をマネジメントシステムとして継続的なＰＤＣＡサイクルを組織内に定着させBCPを適切な状態で維持・管理し、改善しながら組織の事業継続能力を継続的に向上させて行くことが重要である。

②訓練・演習のタイプ

・教育・訓練(演習)の目的は、防災や事業継続に関わる要員に対して、緊急時の行動を十分理解させ緊急事態発生時に果たすべき役割や行動（対応）を体得させ、スキル（正確性やスピード）を身に付ける。

・テスト・訓練の目的は、作成したドキュメントや緊急時に使用する設備機器が仕様とおり機能するか確認する及び緊急時対応の正確性やスピード向上を目的に繰り返し実施する。

・演習の目的は、実際の緊急事態発生を想定し、策定したドキュメントが有効に機能するか検証する、及び想定外の事態発生時にも最適な行動（対応）が臨機応変に行えるよう習熟度向上を図って行く。

<table>
<tr><th colspan="2">種類</th><th>訓練目的</th><th>訓練形式</th><th>訓練対象者</th></tr>
<tr><td colspan="2">啓発・研修
（Awareness）</td><td>BCPの必要性、取組方針、行動規範等
組織としての重要ミッションを認識・理解させ、
コーポレートカルチャーとして浸透させる。</td><td>e-learning
セミナー受講
部門内研修</td><td>全従業員
（職員）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">テスト・訓練</td><td>テスト・検査
（Test）</td><td>策定したルールや文書が有効に機能するか
の合否を判定するための初期段階の訓練
である。 また設備機器が仕様とおりに機能
するか評価・確認する。</td><td rowspan="2">機能評価・確認
机上訓練
実技訓練
ウオークスルー</td><td rowspan="2">BC関連部門
防災担当者</td></tr>
<tr><td>訓　練
（Training）
（Drill）</td><td>手順書に従って対応手順（行動）を習得させ
正確性やスピード向上、及び復旧時間短縮
を目的とする。（反復練習として実施）
RTO達成の有無を確認する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">演　習
（Exercise）</td><td>さまざまなシナリオを想定し手順に明記され
ていない事象に対しても対応できるか検証
する。BCP の有効性検証と改善点の洗い
出し、臨機応変な危機対応能力の醸成、
及び関連部門（公的機関、地域等）との
連携活動を確認する。
またRTO達成の有無を検証する。</td><td>机上演習
シミュレーション
ロールプレイング
総合演習</td><td>経営者
BC関連部門
防災担当者</td></tr>
</table>

＜問題点や課題＞

・防災訓練実施部門（総務・人事など）と事業継続担当部門との連携がうまくいかない

・工場では長年防災訓練を実施しており、凝り固まっており事業継続に目を向けてくれない。

・総務部門で防災と事業継続の両方を担当しているが、各事業部門の戦略や対策実施状況の詳細が分かっていない。

・熊本地震では、安否確認と事業継続担当が別々に活動した。
役割が明確になっていて、安否などの結果が連携できれば良いのではないかと思う。

・熊本地震のとき、被災地現場の要望が十分聞き取ることが出来なかった。

以上